

## 四季のある豊かな自然を誇る日本で、自然を見つめ、季節を感じる

忘れかけていた「自然と共に生きる」 そんな日本人の細やかですばらしい感受性に触れる

### ・五行説

古代中国に端を発する自然哲学の思想

- ・木(青(緑)) =樹木の成長・発育する様子を表す。「春」の象徴。
- ・火(紅) =火のような灼熱の性質を表す。「夏」の象徴。
- ・土(黄) =万物を育成・保護する性質を表す。「季節の変わり目」の象徴
- ・金(白) =収穫の季節「秋」の象徴
- ・水(玄(=黒)) =これを命の泉と考え、胎内と靈性を兼ね備える性質を表す。「冬」の象徴

### ・神事

=本来は、神様に対面して感謝の心を捧げる行事  
=抜粋して、暦との関連を探ってみる

### ・仏事

=日本人の暮らしの節目として根付いた行事を抜粋

### ・二十四節気

=太陽の高さが最も低くなる「冬至」、反対に最も高くなる「夏至」  
その間の「春分」「秋分」の四つを基準にして、一年を二十四等分したもの  
=約十五日おきになる

**赤文字=基本の八節** 立春・立夏・立秋・立冬を**四立**  
夏至・冬至の**二至**、春分・秋分の二分を併せて**二至二分**

### ・七十二候

=二十四節気のそれぞれを三つに分けたもの  
=約五日おきになる

- ・初候 =節気を約5日で分けたもののうち第1のもの
- ・次候 =節気を約5日で分けたもののうち第2のもの
- ・末候 =節気を約5日で分けたもののうち第3のもの

### ・歳時記 / 季語等

- ・赤文字=花
- ・緑文字=植物/木/草/実
- ・黄緑文字=野菜/食
- ・茶文字=魚介
- ・青文字=虫/動物
- ・紫文字=鳥
- ・橙文字=景色/風物
- ・紺文字=自然/風/雨/波/星
- ・黒文字=行事

### ・日本気象協会「季節のことば36選」

=私見としては、選定の意味や意義が理解出来ない  
(季語等に用いられていない「気象関連用語に特化すべきだった」かと・・・)

### <一口メモ>

- ・二十四節気の「気」と 72候の「候」を繋いで、「氣候」の文字が出来たらしい
- ・節句とは =稲作文化が広まるにつれ、気候の変化に沿った農耕プロセスの節目の行事の事  
=神様を祀り、守護や豊作を祈願  
=徳川幕府が「5節句」を定めた(**太字斜体文字**で表記)
- ・雑節とは =二十四節気や節句などの暦日のほかに、季節の移り変わりを継承された習慣を年中行事にした  
=斜体文字+アンダーラインで表記
  - ・**社日**=春分と秋分に最も近い戌の日で神事=「社」は土地の守護神である産土神の事
  - ・**土用**=立春/立夏/立秋/立冬の18日前=土をいじり、殺生を忌む習慣  
夏の土用が有名

**春**

・期間=立春から立夏の前日まで  
 ・イメージ=生命の息吹が一番感じられる季節  
 ・語源 =万物が発するから、草木の芽が張るから、田畑を墾るから、晴天が多いので晴るから、年が明けるので開るから 等々  
 ・五行説では、春=木=青色で、青春という言葉が生まれた(夢と希望に満ち溢れ、活力漲る時節)

2013-05-09 作成  
 薄毛の髭のつば

2月(如月さざぎ)				
二十四節気		七十二候		歳時記/季語等
読みと(意味)		読みと(意味)		
1日				節分 新春 初春
2日				
3日				
4日	<b>立春</b>	<b>りっしゅん</b> (二十四節気の始まり(=一年の始まり)の時節)	東風解凍 はるかぜ こおりをとく (東から吹いてくる風(=春風)が、厚い氷を解かしていく時期)	
5日			黄鶯睨睨	春告草(梅) 薄氷(うすらひ) 春一番 春告魚(鯉) 目白(めじろ) 鶯菜(うぐいすな)
6日			うぐいすなく (鶯(=春告鳥)が美しくさえずり始める時期)	
7日				
8日				
9日				
10日				
11日				
12日				
13日				
14日			魚上氷	
15日			うお こおりをいづる (水温む季節 割れた氷の間から、魚が飛び跳ねる時期)	
16日				
17日				
18日	雨水	うすい (雪が雨に変わり、雪や氷が解け始める時節)	土脉潤起	
19日			つちのしょう うるおいおこる (雨が降って土がいくらか湿り気を含み出す時期)	
20日				
21日				
22日				
23日				
24日			霞始曇	
25日			かすみ はじめてたなびく (霞がたなびき始める時期)	
26日				
27日				
28日			草木萌動	
			そうもくめばえいずる	

3月(弥生やよい)				
二十四節気		七十二候		歳時記/季語等
読みと(意味)		読みと(意味)		
1日				(草木が芽を吹き始める時期) 蛤(はまぐり) 上巳(じょうし) 雛祭り
2日				
3日				
4日				
5日	啓蟄	けいちつ (寒い間、土の中にこもっていた虫たちが活動を開始する時節)	蟄虫啓戸	土筆(つくし) 猫柳 玉筋魚(いかなご) 馬酔木 董(すみれ) 若布(わかめ) 蒲公英(たんぽぽ) 鱒(さわら) 彼岸 彼岸潮 辛夷(こぶし) 蕨(わらび) 桜鯛 柳 片栗 春雷 雪柳
6日			すぐもりのむし とをひらく (土の中で冬籠っていた虫達が活動を開始する時期)	
7日				
8日				
9日				
10日			桃始笑	
11日			もも はじめてさく (桃が咲き始める時期)	
12日				
13日				
14日				
15日			菜虫化蝶	
16日			なむし ちょうとなる (菜を食べる虫(=青虫=紋白蝶の幼虫)が羽化し、紋白蝶になる時期)	
17日				
18日				
19日				
20日	春分	しゅんぶん (昼と夜の時間がほぼ同じ時節)	雀始巢	
21日			すずめ はじめてすくう (雀が巢を作り始める時期)	
22日				
23日				
24日				
25日			桜始開	
26日			さくら はじめてひらく (桜が咲き始める時期)	
27日				
28日				
29日				
30日			雷乃発声	
31日			かみなり すなわちこえをはつす	

4月(卯月うづき)				
二十四節気		七十二候		歳時記/季語等
読みと(意味)		読みと(意味)		
1日				(雷が鳴り始める時期) 桜貝 連華草
2日				
3日				
4日				
5日	清明	せいめい (万事がみんな清らかで、明るく生き生きとしている時節)	玄鳥至	花水木(はなみずき) 花鎮祭 踏青(たうせい) 鳥曇(とりぐもり) 浅蜷(あさり) チューリップ 満天星(どうだんつじ) 白詰草(しろつめくさ) 催花雨 菜種梅雨 春時雨 若緑 若鮎 頬白(ほおしろ) 葱坊主 躑躅(つづじ) 陽炎(かげろう) 藤 山吹 茶摘み
6日			つばめ きたる (玄鳥(=燕)が、南の国から日本に渡ってくる時期)	
7日				
8日				
9日				
10日			鴻雁北	
11日			こうがん かえる (雁が北に変える時期)	
12日				
13日				
14日				
15日			虹始見	
16日			にじ はじめてあらわる (虹が初めて出る時期)	
17日				
18日				
19日				
20日	穀雨	こくう (百穀を潤す雨の時節)	穀始生	
21日			あし はじめてしょうず (穀が芽を出し始める時期)	
22日				
23日				
24日				
25日			霜止出苗	
26日			しもやみてなえいずる (霜も降りなくなり、稲の苗が成長する時期)	
27日				
28日				
29日				
30日			牡丹華	
			ぼたん はなさく (牡丹の花が咲く時期)	

- ・日本気象協会「季節のこぼし36選」
  - ・節分
  - ・バレンタインデー (私見:違和感有り)
  - ・春一番

- ・日本気象協会「季節のこぼし36選」
  - ・ひな祭り
  - ・なごり雪
  - ・おぼろ月

- ・日本気象協会「季節のこぼし36選」
  - ・入学式 (私見:違和感有り)
  - ・花吹雪
  - ・春眠

<一ロメモ> **節分** =立春の前日  
 =季節を分ける日

<一ロメモ> **上巳(じょうし)**=女の子のお祝い「桃の節句」  
 =季節の変わり目から、「暑さ、寒さも彼岸まで」

<一ロメモ>

夏

・期間=立夏から立秋の前日まで  
・イメージ=咲く花の種類が最も多い季節  
・語源 =「暑い」のあつが変化しらしい  
・五行説では、夏=火=紅色

2013-05-09 作成  
薄毛の髭のつぼ

5月(皐月さつき)
・語源 =早苗を植える月
・神事 ・神田御田植初(上旬)=伊勢神宮神田で行われる御料米の早苗
・戸隠神社の祈年祭(14~16日)=豊作祈願祭
・仏事 ・練供養(14日)=諸菩薩に扮し、境内を練り歩く法要
二十四節気 七十二候 歳時記/季語等
1日 2日 3日 4日 八十八夜
5日 立夏 りっか 龍始鳴 かわず はじめてなく (蛙が鳴き始める時期) 河鹿(かじか) 青葉木苑(あおばすく) 端午
6日 7日 8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 小満 しょうまん 蚕起食桑 かいこおきてくわをはむ (蚕が桑の葉を盛んに食べ出す時期) 蚕豆(そらまめ) 薔薇(ばら) 芍薬(しゃくやく)
22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日 紅花栄 べびば なさかゆ (紅花の花が咲き誇る時期) 四十雀 目高 枇杷(びわ)
麦秋至 むぎのとき いたる 百合

6月(水無月みなづき)
・語源 =梅雨も終わり、水が涸れつきる。田んぼに水を張る
・神事 ・月次祭(つきなみさい)(15~25日)=伊勢神宮三節祭に1つ
・夏大祓(30日)=大きな茅の輪をくぐり、半年間の罪穢れを祓う
・仏事 ・鞍馬の竹筏(20日)=水に感謝し、要作を祈る(京都・鞍馬寺)
二十四節気 七十二候 歳時記/季語等
初夏 1日 2日 3日 4日 (麦が実りの時を迎える時期) 水馬(あめんぼ) 結び葉
仲夏 5日 芒種 ぼうしゆ (芒(のぎ)のある穀物の種を蒔く時期) 蠶螂生 かまきりしょうず (蠶螂が卵から出てくる時期) 柘榴(ざくろ) 合歡の木 鶉飼(い)
6日 7日 8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 腐草為螢 くされたるくさほたるとなる (腐った草が螢になる時期) 紫陽花 蝸牛(かたつむり) 入梅
21日 夏至 げし (太陽の高さが一番高く、昼の時間が最も長くなる時期) 乃東枯 なつかれくさかえる (夏枯草が枯れる時期) 振花(ねじはな) 立葵(たちあおい) 翡翠(かわせみ)
22日 23日 24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 菖蒲華 あやめ はなさく (菖蒲の花が咲く時期) 夏椿 金魚 山雀(やまがら)

7月(文月ふみづき)
・語源 =七夕に書の上達を祈る文上げ月
・神事 ・祇園祭(1~31日)=京都八坂神社の例祭(日本三大祭の1つ)
・仏事 ・四万六千日(10日)=一日で、126年分の功德が積める
二十四節気 七十二候 歳時記/季語等
仲夏 1日 2日 3日 4日 5日 6日 半夏生 はんげしょうず (半夏(=烏柄杓)が生え出す時期) 半化粧 凌霄花(のうぜんかずら) 夏越の祓(なごしのはらえ)
晩夏 7日 小暑 しょうしょ (この日から暑中となる時期) 温風至 あつかぜいたる (暑い風が吹いてくる時期) 七夕 星合の空 小鷺(こさぎ) 朝顔
8日 9日 10日 11日 12日 13日 14日 15日 16日 17日 18日 19日 20日 21日 22日 23日 大暑 たいしょ (しいよいよ梅雨も明け、暑さが本格化する時期) 桐始結花 きり はじめてはなをむすぶ (桐の花が初めて咲く時期) 鱧(はも) 鯉(こい) 土用波
24日 25日 26日 27日 28日 29日 30日 31日 鷹乃学習 たか すなわちがくしゅうす (鷹の幼鳥が、飛ぶことを学習(=巣立ち)する時期) 鷹乃学習 土潤溽暑 つちうるおうて むしあつし (土がじっとりとして、蒸し暑くなる時期) 向日葵(ひまわり) 西瓜(すいか) 早星(ひでりほし)

・日本気象協会「季節のこぼし36選」
・風薫る
・鯉のぼり
・卯の花

<一口メモ> 端午 =男の子の健やかな成長を祈願 菖蒲の節句(勝負、尚武)
八十八夜 =立春から数えて88日目 作物の冷害(霜)への注意喚起

・日本気象協会「季節のこぼし36選」
・あじさい
・梅雨
・螢舞う

<一口メモ> 入梅 =梅の実が熟する頃に雨期に入るから入梅

・日本気象協会「季節のこぼし36選」

・蝉しぐれ
・ひまわり
・入道雲
・夏休み (私見:違和感有り)
・夏日 =最高気温が25℃以上
・真夏日 =最高気温が30℃以上
・猛暑日 =最高気温が35℃以上
・極暑 =暑さの盛り
・炎暑 =燃えるような暑さ
・酷暑 =苛酷な暑さ
・七夕 =織女と牽牛が天の川で出会う

# 秋

・期間=立秋から立冬の前日まで  
 ・イメージ=何んといっても、豊かな実りの季節  
 ・語源 =稲が熟らむから、食べ物が飽きるほどあるから、空が明らかなから、草木の葉の空間が多くなるから、草木が紅くなるから 等々  
 ・五行説では、秋=金=白色

2013-05-09 作成  
 薄毛の髭のつぼ

## 8月(葉月はづき)

・語源 =旧暦では、秋に当たる為、葉落ちる月の略  
 ・神事 ・朔日参り(1日)=伊勢神宮での五穀豊穡や無病息災を祈願  
 ・富士浅間神社の火祭り(26~27日)=夏の富士山の山じまい祭り  
 ・仏事 ・盂蘭盆会(13~16日)=先祖の霊を迎え供養する期間  
 ・地蔵盆(22~24日)=地蔵に感謝し無病息災を祈る行事

二十四節気	七十二候	歳時記/季語等
読みと(意味)	読みと(意味)	

晩夏	1日					
	2日		大雨時行	たいうときどきにふる	花火 浴衣 ハイビスカス	
	3日			(時として、大雨が降り易い時期)		
	4日					
	5日					
	6日					
初秋	7日	立秋	りっしゅう	涼風至	すずかぜ いたる	撫子(なでしこ) 夾竹桃(きょうちくとう)
	8日		(初めて秋の気配が現れてくる時節)	(涼しい風が吹き始める時期)		
	9日					蠡螋(きりぎりす)
	10日					
	11日					
	12日			寒蟬鳴	ひぐらしなく	つくづく法師 女郎花(おみなえし)
	13日				(蛸(ひぐらし)が鳴き始める時期)	盆
	14日					
	15日					
	16日					
	17日			蒙霧升降	ふかききり まとう	桔梗(ききょう) 樺(むくげ)
	18日				(深い霧が、まとわりつく様にたちこめる時期)	無花果(いちじく)
	19日					
	20日					
	21日					
	22日					
	23日	処暑	しよしょ	綿柎開	わたのはな しべひらく	葛(くず) 白粉花(おしろいばな)
	24日		(暑さがおさま		(綿を包む萼(がく)が開き始める時期)	
	25日		まり、朝晩の			精霊蜻蛉(しょうりょうとんぼ)
	26日		涼しさを感じる			鐘叩き
	27日		時節)			水引 鳳仙花
	28日			天地始肅	てんち はじめてさむし	
	29日				(ようやく暑さもおさまる時期)	
	30日					
	31日					

・日本気象協会「季節のこぼし36選」  
 ・原爆忌(広島と長崎) (私見:違和感有り)  
 ・流れ星  
 ・朝顔

<一口メモ> 秋の七草 =女郎花(おみなえし)  
 =尾花(おばな)=薄(すすき)  
 =桔梗(ききょう)  
 =撫子(なでしこ)  
 =藤袴(ふじばかま)  
 =葛(くず)  
 =萩(はぎ)

## 9月(長月ながつき)

・語源 =だんだん夜が長くなる「夜長月」→「長月」  
 ・神事 ・秋季皇霊祭遥拝=伊勢神宮の祭り(秋分の日)

・仏事 ・彼岸会=秋分の日前後の3日間=先祖供養やお墓参り

二十四節気	七十二候	歳時記/季語等
読みと(意味)	読みと(意味)	

初秋	1日				二百十日	
	2日		禾乃登	こくもの すなわちみのる	赤蜻蛉(あかとんぼ)	
	3日			(いよいよ稲が実る時期)	蜻蛉 コスモス	
	4日					
	5日					
	6日					
仲秋	7日	白露	はくろ	草露白	くさのつゆしろし	萩 露草 重陽
	8日		(露が降りて、白く光って見えるようになる時節)	(草の露が白く光って見える時期)		
	9日					
	10日					
	11日					二百二十日
	12日			鶺鴒鳴	せきれいなく	竹の春 糸瓜(へちま) 秋刀魚(さんま)
	13日				(鶺鴒が鳴く時期)	
	14日					
	15日					
	16日					
	17日			玄鳥去	つばめさる	中秋の名月 里芋 薄(すすき)
	18日				(春にやってきた燕が、南に帰っていく時期)	
	19日					
	20日					
	21日					
	22日					
	23日	秋分	しゅうぶん	雷乃收声	かみなり すなわちこえをおさむ	彼岸花 南蛮煙管 鵲(むす)
	24日		(昼と夜の時間がほぼ同じ時節)		(雷が鳴らなくなる時期)	
	25日					
	26日					
	27日					
	28日			螿虫坏戸	むしかくれてとをふさぐ	小啄木鳥(げら) 柿 金木犀
29日				(虫が土の中に入って、入口をふさぐ時期)		
30日						

・日本気象協会「季節のこぼし36選」  
 ・いわし雲  
 ・虫の声  
 ・お月見

<一口メモ> 重陽 =「菊の節句」  
 ・台風襲来  
 =立春から数えて210日目と220日目  
 二百十日 =稲の開花時期  
 二百二十日 =この日も天候が荒れる日

## 10月(神無月かみなづき)

・語源 =全国の神々が出雲大社に集まり、各地は神が居なくなる  
 ・神事 ・神嘗祭(かんなめさい)(15~25日)=伊勢神宮三節祭に1つ  
 ・諏訪神社の秋の大祭(7~9日)=氏子による演目を奉納  
 ・仏事 ・御会式(11~13日)=日蓮の命日に行われる法要

二十四節気	七十二候	歳時記/季語等
読みと(意味)	読みと(意味)	

仲秋	1日					
	2日					
	3日			水始涸	みずはじめてかれる	稽(ひつじ) 藤袴 紫式部
	4日				(田んぼの水を抜いて、稲刈りの準備を始める時期)	
	5日					
	6日					
	7日					
晩秋	8日	寒露	かんろ	鴻雁来	こうがんきたる	雁渡し 葉鶏頭 鴨
	9日		(霜になりそうな冷たい露が降りる時節)	(春 北に帰っていた雁が、再びやってくる時期)		
	10日					
	11日					
	12日					
	13日			菊花開	きくのはな ひらく	十三夜 栗 枝豆
	14日				(菊の花が咲く時期)	
	15日					
	16日					
	17日					
	18日			蟋蟀在戸	きりぎりす とにあり	蟋蟀(こおろぎ) 松虫 竜胆(りんどう)
	19日				(戸口で、秋の虫が鳴く時期)	
	20日					
	21日					
	22日					
	23日	霜降	そうこう	霜始降	しも はじめてふる	千鳥 吾亦紅 芭蕉
	24日		(霜が降りる時節)		(霜が初めて降りる時期)	
	25日					
	26日					
	27日					
	28日			雲時施	こさめ ときどきふる	八入の雨 団栗(どんぐり) 茸(きのこ)
	29日				(小雨が降り、一雨毎に気温が下がる時期)	
	30日					
	31日					

・日本気象協会「季節のこぼし36選」  
 ・紅葉(もみじ)前線  
 ・秋祭り  
 ・冬支度

<一口メモ>

冬

- ・期間=立冬から立春の前日まで
- ・イメージ=春が待ち遠しい季節
- ・語源 =「冷ゆ(ひゆ)」が変化、寒さに震う、年が暮れゆくので経ゆ、等々
- ・五行説では、冬=水=玄(黒)色

2013-05-09 作成  
薄毛の髭のつぼ

11月(霜月しもつき)

- ・語源 =霜は降る月
- ・神事 ・明治祭(3日)=明治天皇の誕生日
- ・新嘗祭(にいなめさい)(23日)=神々に新穀を供える
- ・仏事 ・十夜(5〜15日)=念仏を唱え極楽往生を願う念仏会(京都・真如堂)

二十四節気 読みと(意味)	七十二候 読みと(意味)	歳時記 /季語等
------------------	-----------------	-------------

晩秋	1日								
	2日								
	3日			楓	もみじ	つたき	ばむ	銀杏(いちよう)	
	4日							山粧語(やまよそお)	
	5日							星月夜	
	6日								
初冬	7日	立冬	りっとう	山茶始開	つばき	はじめて	ひらく	石菫(つわぶき)	
	8日		(初めて冬の気配が現われてくる時期)					牡蠣(かき)	
	9日							柳葉魚(しやも)	
	10日								
	11日								
	12日				地始凍	ち	はじめて	こおる	小春日和
	13日								敷松葉
	14日							七五三	
	15日								
	16日								
	17日				金盞香	きんせんか	さく	金盞花(きんせんか)	
	18日								
	19日							百合鷗	
	20日							綿虫(わたむし)	
	21日								
22日	小雪	しょうせつ		虹蔵不見	にじ	かくれて	みえず	龍の玉	
23日		(雪はそれほど多くなく、各地で初雪の便りが届く時期)						南天	
24日								鷺鷥(おしどり)	
25日									
26日									
27日					朔風払葉	きたかぜ	このは	を	落葉松(からまつ)
28日									八手(やつて)
29日								鶺鴒(かいつぶり)	
30日									
31日									

- ・日本気象協会「季節のこぼし36選」
- ・木枯らし1号
- ・七五三
- ・時雨

<一口メモ> ・国字(こくじ) =漢字に倣って日本で作られた漢字体の文字 (和製漢字)

凧(こがらし)、凧(なぎ)、凧(おろし)  
鱈(たら)、峠(とうげ)

12月(師走しわす)

- ・語源 =法師が走り回る
- ・神事 ・月次祭(つきなみさい)(23日)=伊勢神宮三節祭に1つ
- ・大祓(31日)=心身の穢れや災いも払う
- ・仏事 ・成道会(8日)=お釈迦様が悟りを開いた日の記念法要
- ・除夜(31日)=過ぎ去る年を反省し、新年を迎える

二十四節気 読みと(意味)	七十二候 読みと(意味)	歳時記 /季語等
------------------	-----------------	-------------

初冬	1日								
	2日			橋始黄	たちばな	はじめて	き	橙	
	3日							ビラカンサ	
	4日							河豚(ふぐ)	
	5日								
	6日								
仲冬	7日	大雪	たいせつ	閉寒成冬	そら	さむく	ふゆ	となる	鱈(たら)
	8日		(寒さが厳しくなり、雪が盛んに降る時期)						湯湯婆(ゆたんぼ)
	9日								万両(まんりょう)
	10日								
	11日								
	12日				熊蟄穴	くま	あなに	こもる	煤払い
	13日								松迎え
	14日							悴け猫(かじけねこ)	
	15日								
	16日								
	17日				鰯魚群	さけ	のう	むらがる	ずわい蟹
	18日								ポインセチア
	19日								樺(ゆずりは)
	20日								
21日									
22日	冬至	とうじ		乃東生	なつ	かくれ	さ	しょうず	
23日		(太陽の高さが最も低く、夜の時間が最も長くなる時期)							柚子(ゆず)
24日									南瓜(かぼちゃ)
25日									樅(もみ)
26日									
27日					麋角解	さわ	しかの	つのお	つる
28日									シクラメン
29日								裏白	
30日								年越蕎麦	

- ・日本気象協会「季節のこぼし36選」
- ・冬將軍
- ・クリスマス (私見:違和感有り)
- ・除夜の鐘

<一口メモ> ・冬日 =1日の最低気温が0℃以下の日  
・真冬日 =最低気温が0℃以下の日

1月(睦月むつき)

- ・語源 =親族が集い、陸み合う月
- ・神事 ・歳旦祭(1日)=新年を祝い、国家の繁栄を祈念
- ・元始祭(3日)=宮中三殿で行われる天皇の親祭
- ・仏事 ・修正会(1〜3日)=国の繁栄と五穀豊穡を祈る法会
- ・七福神参り(1〜7日)=七福神を巡礼し、開運を願う

二十四節気 読みと(意味)	七十二候 読みと(意味)	歳時記 /季語等
------------------	-----------------	-------------

初冬	1日			雪下出麦	ゆき	わたり	て	むぎの	福寿草	
	2日							ひる	注連縄(しめなわ)	
	3日									
	4日								屠蘇(とそ)	
晩冬	5日	小寒	しょうかん	芹乃榮	せり	すなわ	さ	さかう	人日(じんじつ)	
	6日		(寒さはまだ小さい時期、この日から「寒の入り」)						七草の節句	
	7日								葉牡丹	
	8日									花信風(かしんふう)
	9日									
	10日				水泉動	しみず	あ	か	か	日向ぼっこ
	11日									昆布
	12日								鏡開き	
	13日									
	14日									
	15日				雉始雉	き	は	じ	め	て
	16日									小正月
	17日									小豆
	18日									耐鑷(じょうびたき)
	19日									
	20日	大寒	だいかん		欵冬華	ふ	き	の	は	な
	21日		(最も寒い時期)							
22日										鱒(ぶり)
23日										昂(すばる)
24日										
25日					水沢腹堅	さわ	み	ず	こ	お
26日										
27日										蠟梅(ろうばい)
28日										虎落笛(もがりふえ)
29日										
30日				雞始乳	に	わ	と	り	は	じ
31日										柗(ひいらぎ)

- ・日本気象協会「季節のこぼし36選」
- ・初詣
- ・寒稽古
- ・雪おろし

<一口メモ> ・春の七草 =芹(せり)  
=薺(なずな)=べんべん草  
=御形(ごぎょう)=母子草  
=繁縷(はこべら)=はこべ  
=仏の座(ほとけのざ)=こおにたべらこ  
=菘(すずな)=蕪(かぶ)  
=蘿蔔(すずしろ)=大根